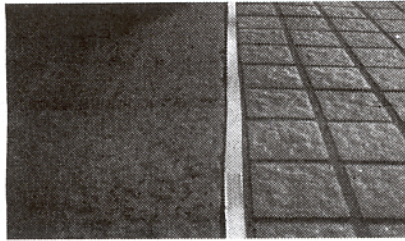


# 輝度、JIS値の15倍

## オサダ技研 避難誘導向け蓄光素材

オサダ技研(大阪市天王寺区、長田秀晴社長、06・6764・5724)は、高輝度発光する蓄光樹脂素材「リードライン」写真」を発売した。安全標識板に適用さ

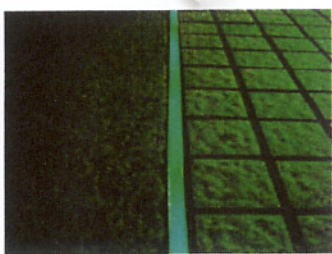


れる日本工業規格(JIS)値の約15倍にあたる輝度を持ち、屋外仕様も可能。価格は幅1メートル長さ100センチで3500円から。避難誘導のほか、道路、階段などでの

利用を見込み、建材店、道路会社、ゼネコンへ売り込む。3年以内に年間1億円の売り上げを目指す。

道路や床に溝をつくり、白色の地下樹脂と蓄光材を混ぜたエポキシ樹脂を重ねて注入、硬化させる。透過性が高く、紫外線を受けても変色しにくいエポキシ樹脂と白色地下樹脂の採用で、輝度を高めた。消灯してから20分経過後で1平方メートルあたり349ルクスの高輝度を表現し、屋外使用も可能にした。

既存の蓄光材より輝度が高く、発光継続時間も長いため、屋外では「日没後、夜明けまで目視が可能」(技術営業部)としている。



輝度がJIS値15倍の避難誘導向け蓄光素材

## この製品

### この会社

### オサダ技研

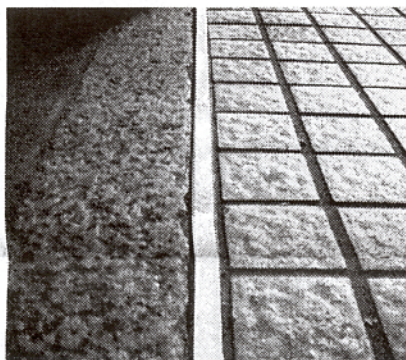
自然光や照明光をエネルギーとして蓄えて、発光する蓄光式避難誘導標識。電力を必要としないため、無電化・無電力地帯でも利用できるうえ、環境に優しい。

これを白色の地下樹脂の上に重ねるようにして注入、硬化させる。この工法で、日本工業規格(JIS)規格値の約15倍となる349ルクス(照射後20分、1平方メートルあたり)にまで輝度を高めた。人が文字を読める程度の輝度が200ルクスといることを考えれば、かなり明るいことが分かるだろう。

オサダ技研(大阪市天王寺区、長田秀晴社長、06・6764・5724)の「リードライン」は、この避難誘導標識用の高輝度樹脂。蓄光材を混ぜた透過性の高いエポキシ系樹脂だ。

エポキシ系樹脂は、紫外線を受けると黄色く変色するため、屋外の使用に適していないかったが、同社は技術的な改良でこれを克服。発光継続時間も長い。屋外では日没後から夜明けまで、目視が可能になった。従来は、屋内のみに利用が限られてきた蓄光材に非常階段、工

## 安全標識用蓄光材



高輝度樹脂を白色の地下樹脂の上に注入、硬化させる

材に非常階段、工

## 電力不要で屋外利用も可能

場外周、通学路、山道などといった屋外利用の道が開けた。これにより、避難誘導だけでなく、夜間犯罪の防止といった用途の広がりも見えてきた。

また、設置したい場所に深さ3センチほどの溝をついて樹脂を流し込む工法なので、路面の平滑性を保つことができ、つまずいたり引っかけたりする心配もない。直線や曲線の施工にも対応できる。

ただ、樹脂が硬化する時間を必要とするため、施工には1-2日必要。エポキシは熱硬化性樹脂であるため、寒冷地での施工にも課題がある。そこで同社では現在、工法を工夫した寒冷地仕様の商品も開発中。「輝度をさらに高める技術にもめどが付いている」(技術営業部)そうだ。さらなる用途の広がりが期待される。